



札幌市河川環境指針

～「自然」・「人」・「まち」をつなぐ川づくり～



平成21年(2009年)3月

はじめに

札幌市は、豊平川を含む石狩川水系、新川水系、星置川水系の3つの水系に大小あわせて約600もの川が流れる川の多いまちです。

昭和20年代までは、市の中心部が位置する豊平川扇状地の末端にメムと呼ばれる泉が湧き出ており、そこからの水の流れは市民にとって身近な水辺として、日常の風景の一部となっていました。

また、その一方で、水害による災害も多くおきており、市民の暮らしを守り生活を豊かにするために、治水・利水を優先した川づくりが長く続けられました。

近年、社会・経済の発展とともに河川の持つ豊かな機能が見直され、これまでの治水・利水の考え方に新たに「環境」という考え方が加えられました。

この流れに応じ、札幌市においても、自然生態系に配慮した川づくりや市民の皆様に川に親しんでいただけるよう親水施設整備などを行ってきましたが、中には、コンクリート護岸を自然石に変えただけのものや、下流域の川に中流や上流で見られる川を再現しようとしたものなど、必ずしも良好とはいえない事例もありました。

そこで、札幌市では、これまでの川づくりについての課題を整理し、よりよい河川環境を保全・創出するために今後の札幌市の川づくりの方向性を示すものとして、このたび、「札幌市河川環境指針～『自然』・『人』・『まち』をつなぐ川づくり～」を策定しました。

指針策定にあたりましては、今、どのような川づくりが望まれているのかを市民の代表や学識経験者などにより構成された「さっぽろ地域川づくり座談会」において、市民参加のワークショップ、住民へのアンケート、河川活動団体の意見なども踏まえ検討していただき、平成19年3月に「さっぽろ地域川づくりに関する提言～札幌らしい川との暮らし方の提案とこれからの川づくりについて」をいただきました。

札幌市河川環境指針は、この提言をもとに、学識経験者による検討会において更にご意見をいただきながら策定したものです。

転換期を迎えた、札幌の川づくり。この指針を第一歩として、人と自然とまちの関係が調和した川づくりを進めてまいります。

最後に、指針の策定にご提言やご助言などをいただいた座談会、検討会の委員の皆様をはじめ、多数の貴重なご意見をお寄せいただいた市民の皆様に対し、心から感謝を申し上げますとともに、今後の関係の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

目次

序章	指針の策定にあたって	3
	1 策定の背景	3
	2 対象河川	4
	3 位置づけと目的	5
	4 指針の構成	6
1章	札幌市の河川の特徴	7
2章	これまでの河川環境整備	10
	2-1 札幌市の河川環境整備	10
	(1) 人の利用を考えた事例	10
	(2) 生物の生息環境に配慮した事例	10
	(3) 住民参加によって整備を進めた事例	11
	(4) 当初のイメージ通りにならなかった事例	12
	2-2 これまでの川づくりからの課題	13
3章	札幌市が目指す川の姿	15
4章	基本方針	16
5章	基本方針の展開	18
	5-1 札幌の自然環境・地形・水文特性を考慮して川を育む	18
	(1) 川が本来持っている自然環境に合った川づくり	18
	(2) 川と川辺の本来の生態系に配慮した維持管理	24
	(3) 川づくりのモニタリングの推進とデータの収集・整理	24
	5-2 川に親しみ、川と人の関係を育む	25
	(1) 人の利用に配慮した川づくり	25
	(2) 協働により川を育む	28
	(3) 川との関わりを育てる	31
	(4) 川に関する情報発信・普及啓発	34
	5-3 豊かな川の風景のあるまちを育む	37
	(1) まちの景観軸となる川づくり	37
6章	札幌市河川環境指針の実現に向けて	39
	6-1 札幌市河川環境指針の推進体制	39
	(1) (仮称)札幌市河川環境推進連絡会による指針の推進	39
	(2) 河川環境の変化に順応する整備手法の検討	40
	(3) モデル地域による指針の推進	42
	6-2 札幌らしい川づくりに向けた行政の連携	43
	(1) 行政の連携の必要性	43
	(2) 連携により検討すべき事項	44
	参考資料	48